

経営比較分析表

東京都 日の出町

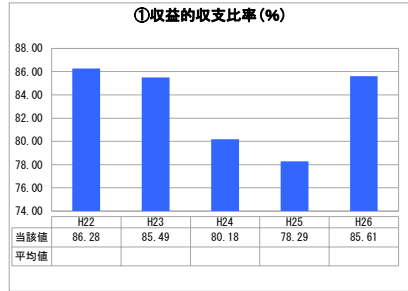
業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cc2
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)
-	該当数値なし	99.97	90.42

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
17,062	28.07	607.84
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
17,054	5.27	3,236.05

グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成26年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



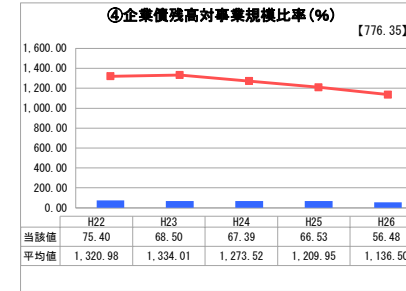
「単年度の収支」



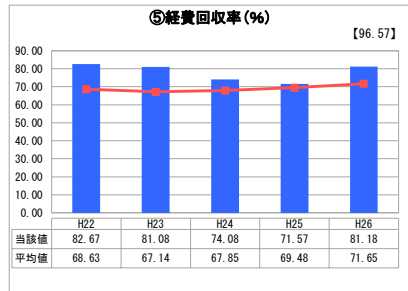
「累積欠損」



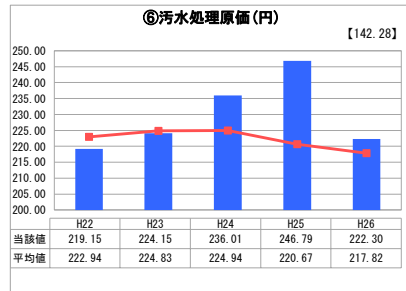
「支払能力」



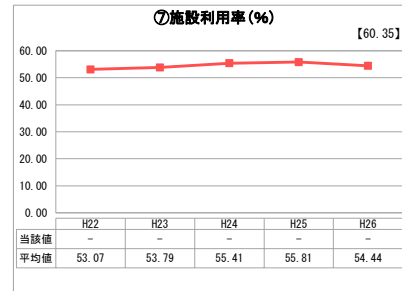
「債務残高」



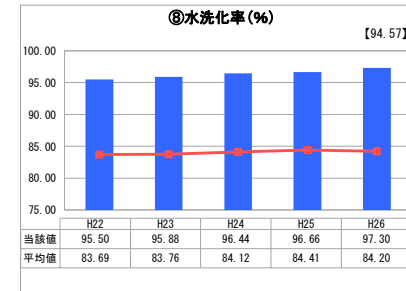
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

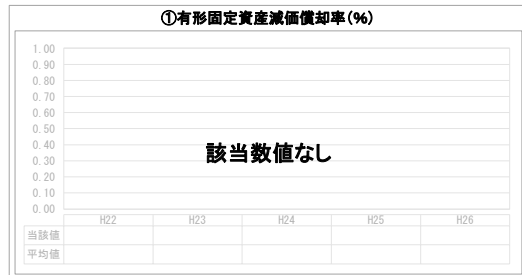


「施設の効率性」

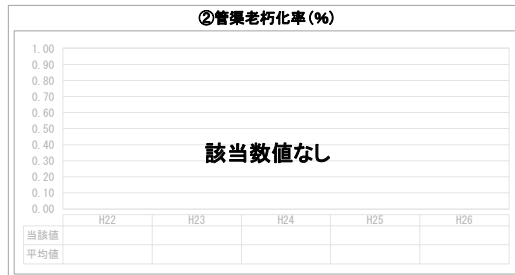


「使用料対象の捕捉」

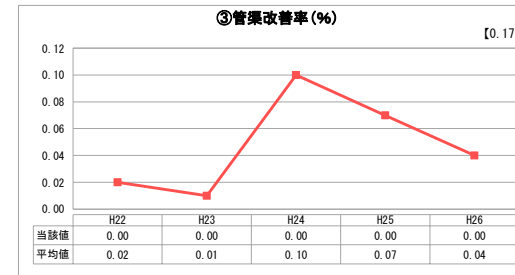
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析概

1. 経営の健全性・効率性について

日の出町の使用料収入は大口数社の事業所が50%前後を占めており、その使用量は各事業所の特性があり各年度大きな増減が出ています。地方債償還金は、平成25年度をピークに減少していきます。このことから、収益的収支比率は前年比7.3ポイント増の指標となっております。

経費回収率及び汚水処理原価については、資本費が多いことが要因となり、回収率と処理原価に影響しています。

また平成26年度決算の前年対比は、回収率は9.6ポイント増、処理原価は24.4円減となり、これは使用料収入が多かったことによります。

2. 老朽化の状況について

日の出町の管きょ施設の敷設は平成27年度末で経年31年となり、更新は未着手となっています。数年中には長寿命化(ストックマネジメント)計画の策定に着手します。

全体総括

今後の使用料収入増は見込めないため、使用料金の見直しを検討しています。維持管理及び建設事業は、計画的な老朽化対策を含めた維持管理計画を策定し事業の平準化を図ります。また、水洗化率100%を目標に未接続世帯への戸別訪問の実施も含めて経営安定化を図っていきます。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。